

さいたま市防災カルテ

城北中学校区

①学区の概況と課題

◆学区の概要

【位置】岩槻区の北西部に位置し、見沼区と隣接している。
 【土地利用】学区の北部には田んぼが広がっており、北東部には工場がある。北部には元荒川が流れる。
 【交通】学区の北西部には東北自動車道と国道122号、南部には東武野田線が走っている。

◆学区の位置



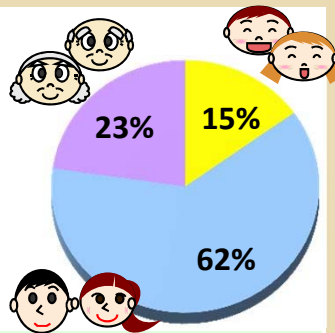
◆学区内被害想定結果

地震	さいたま市直下地震	関東平野北西縁断層帯地震	東京湾北部地震			
最大震度	6弱 (5.9)	6強 (6.0)	5強 (5.4)			
最小震度	6弱 (5.6)	6弱 (5.6)	5弱 (4.9)			
死者	5人 (0.0%)	8人 (0.0%)	0人 (0.0%)			
負傷者	103人 (0.5%)	132人 (0.6%)	3人 (0.0%)			
避難者	2,171人 (9.6%)	2,423人 (10.8%)	115人 (0.5%)			
全壊建物棟数	175棟 (1.9%)	280棟 (3.1%)	2棟 (0.0%)			
うち焼失棟数	77棟 (0.9%)	123棟 (1.4%)	0棟 (0.0%)			
半壊建物棟数	880棟 (9.7%)	1,079棟 (11.9%)	86棟 (1.0%)			
水害	荒川	利根川	江戸川	芝川等	綾瀬川等	鴨川等
床上浸水建物棟数	2,000棟	294棟	0棟	0棟	0棟	0棟
床下浸水建物棟数	1,873棟	2,295棟	0棟	0棟	0棟	0棟

※震度のカッコ内は計測震度を、それ以外のカッコ内は学区内の比率を示す。

◆人口概況 (平成22年国勢調査)

	城北中学校区	全市平均
総人口	22,539人	
人口等		
0-14歳	3,397人 (15%)	(14%)
15-64歳	14,027人 (62%)	(67%)
65歳以上	5,115人 (23%)	(19%)
人口密度	3,329人/km ²	5,766人/km ²



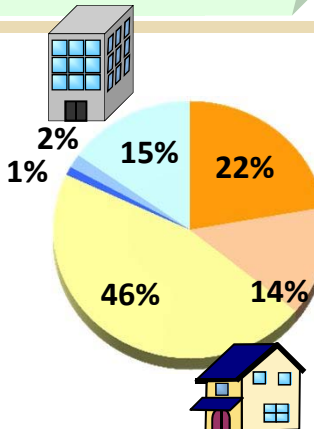
【地震】関東平野北西縁断層帯地震では最大震度6強となっているが、他の地域と比べ、相対的にはどの地震の場合でも**被害率は低い**。
 【水害】荒川が氾濫した場合、**地区の40%以上が浸水被害**を受ける。

◆防災関連施設情報 (平成26年2月時点)

種別	名称
避難場所	城北中学校、城北小学校、河合小学校
一時・広域避難場所	
市・区役所等窓口	
消防署・出張所	
警察署・交番	
救急病院	
応急給水場所	城北小学校、金重配水場

◆建物概況 (平成23年度さいたま市都市計画基礎調査)

	城北中学校区	全市平均
総建物棟数	9,048棟	
建物		
木造(昭和46年以前)	2,008棟 (22%)	(17%)
木造(昭和47-55年)	1,240棟 (14%)	(12%)
木造(昭和56年以後)	4,175棟 (46%)	(45%)
非木造(昭和46年以前)	96棟 (1%)	(1%)
非木造(昭和47-55年)	157棟 (2%)	(3%)
非木造(昭和56年以後)	1,372棟 (15%)	(21%)



◆被害想定結果からわかる防災上の主なポイント

【耐震化】古い木造建物が多い地区のため、**耐震化率の向上が必要**。
 【水害】水害の危険性が高い地区となっており、迅速な情報伝達体制や、自主防災組織等による**安全な避難体制の構築が必要**。

人口割合は全市平均とほぼ等しい一方、**人口密度は低い**。

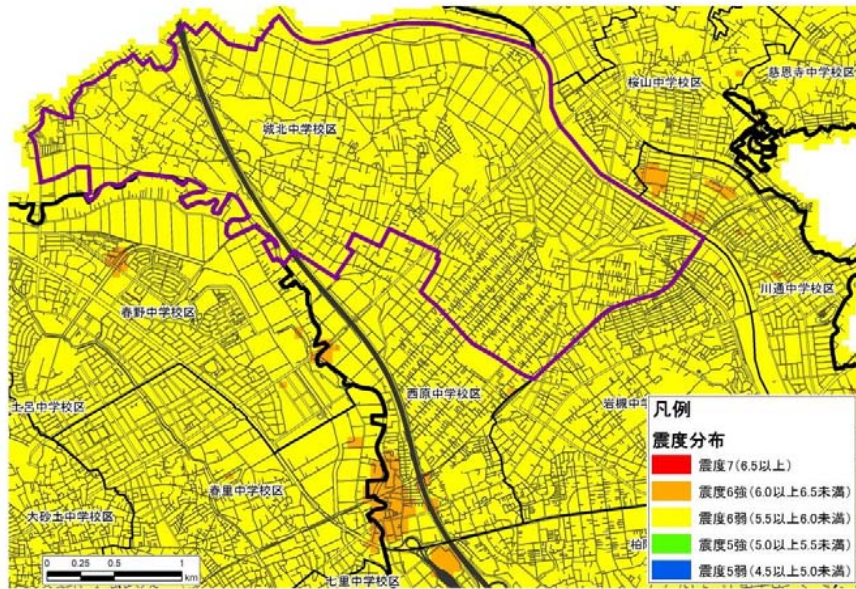
全市平均と比較すると、いわゆる**旧耐震基準の木造建物が比較的多い**。

本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話合ってみましょう。

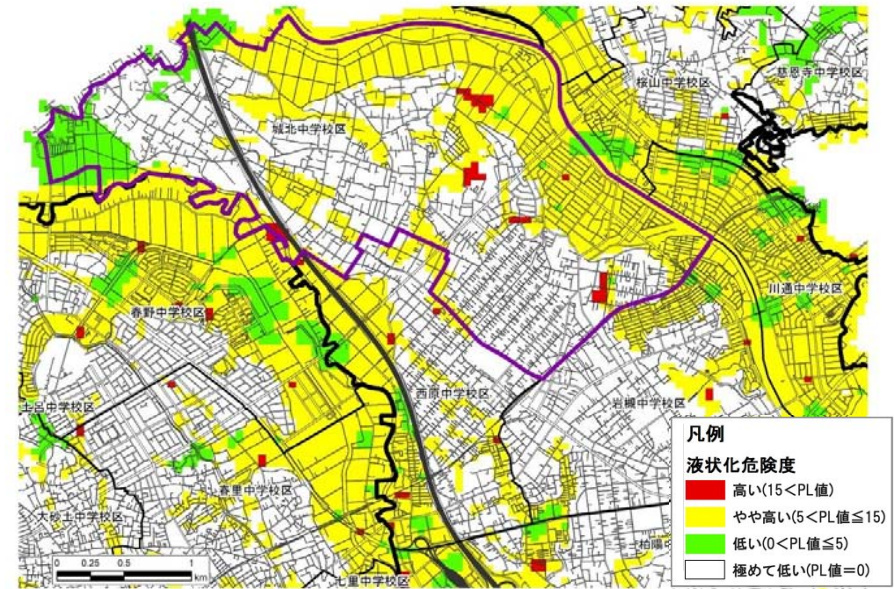
②さいたま市直下地震の想定 さいたま市防災カルテ

城北中学校区

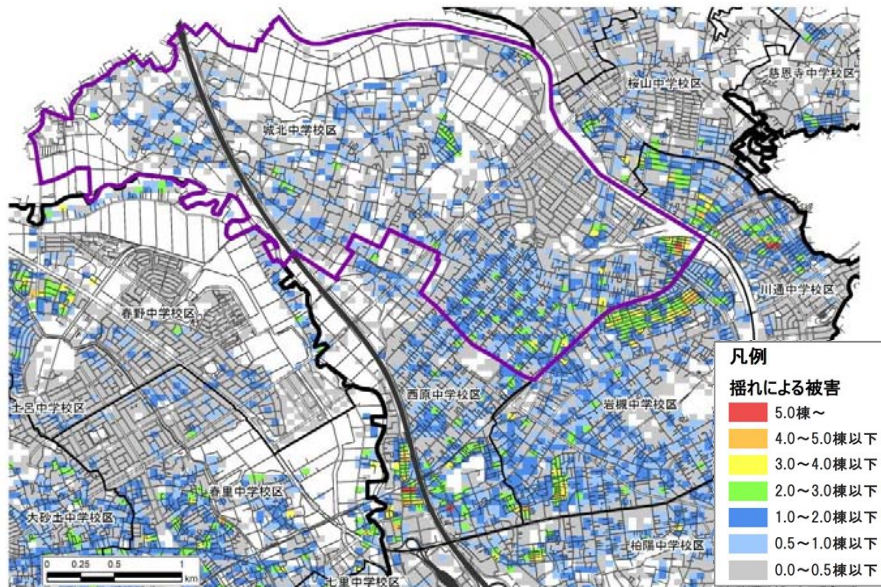
震度分布図



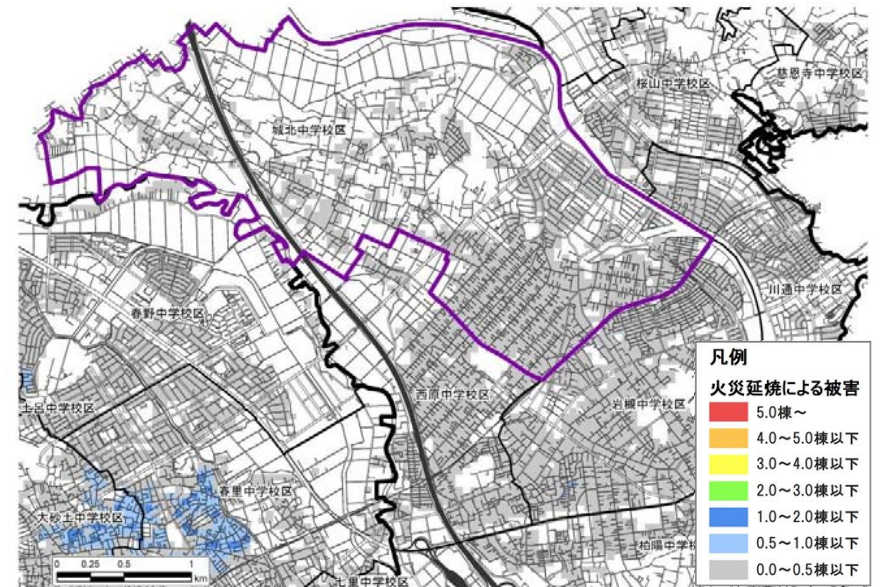
液状化危険度分布図



建物被害分布図（揺れによる被害）



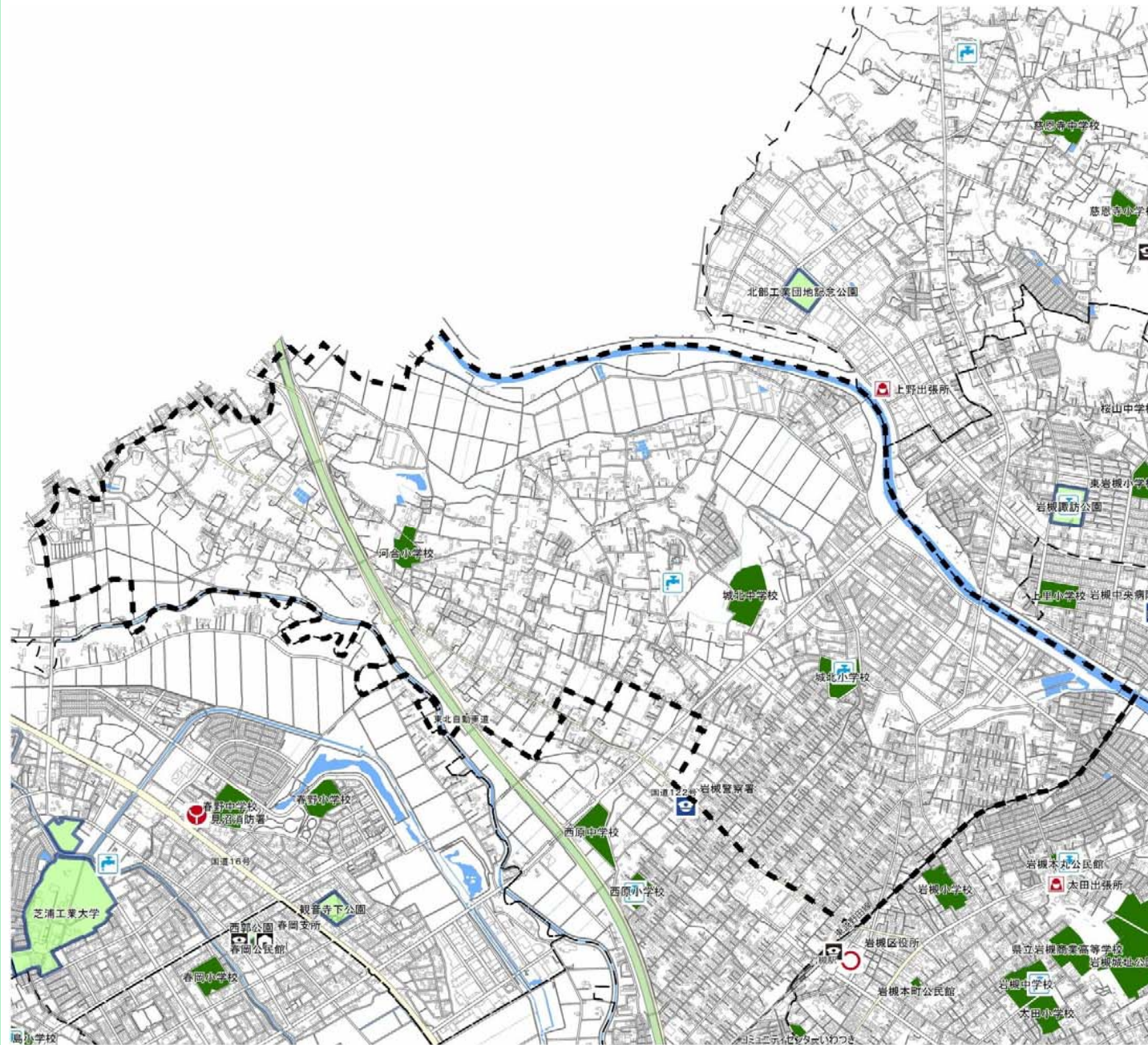
建物被害分布図（火災延焼による被害）



③防災マップ

さいたま市防災カルテ

城北中学校区



凡例

避難場所	消防署
一時避難場所	消防署(出張所)
広域避難場所	警察署
市役所	交番・駐在所
区役所	救急病院
支所・市民の窓口	応急給水場所

(平成26年2月時点の情報で作成)

